



ネイチャーセンターだより

2022年8月号

新・いきもの図鑑



写真：善浪めぐみ

- 【参考文献】
- BirdLife International. 2022. Species Fact Sheet:Numenius Madagascariensis.
 - 環境省. 2015. モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査業務第 2 期とりまとめ報告書
 - 植田睦之. 2004. バードリサーチニュース Vol.1 No.3.

ホウロクシギ (焙烙鵜)

秋と春、風蓮湖に立ち寄っていくシギの仲間の旅鳥です。大きさはカラスほどもあり、長く下向きに曲がったくちばしで、干潟や浅瀬の泥や砂の中から、貝やカニ、アナジャコ、ゴカイなどを引っぱり出して食べます。「ホーーン」と大きな声で鳴きます。

風蓮湖では7月～9月の秋の渡り時期には1～3羽、まれに10羽程度の群が毎年見られます。子育てをするのはロシア東部のカムチャツカ半島や、アムール川中流域の湿原で、世界でこの地域にしか住んでいません。オーストラリアや東南アジアまで渡って行って冬を越します。春は4月下旬ごろ渡来します。

全国的にホウロクシギが渡来する場所は限られており、世界的にも数が少なく、絶滅の危険が増大していると考えられています。風蓮湖で安心して過ごせるように、これからも見守っていききたい鳥です。

夏羽のカムリカイツブリと

オオハクチョウのその後

7月22日、春国岱ヒバリコース迂回路より根室湾海上を観察していたところ、クロガモの群れの近くに夏羽のカムリカイツブリを2羽見つけました。カムリカイツブリは日本では青森県や滋賀県で局地的に繁殖しており、北海道では一般的に旅鳥や冬鳥として知られている鳥です。春国岱でも冬の観察記録ばかりで、7月に観察された記録はこれが初めてです。

NEWS



イラスト：大久保明香

写真を撮れなかったのでイラストでお届け。夏羽はたてがみのような飾り羽が美しいです。

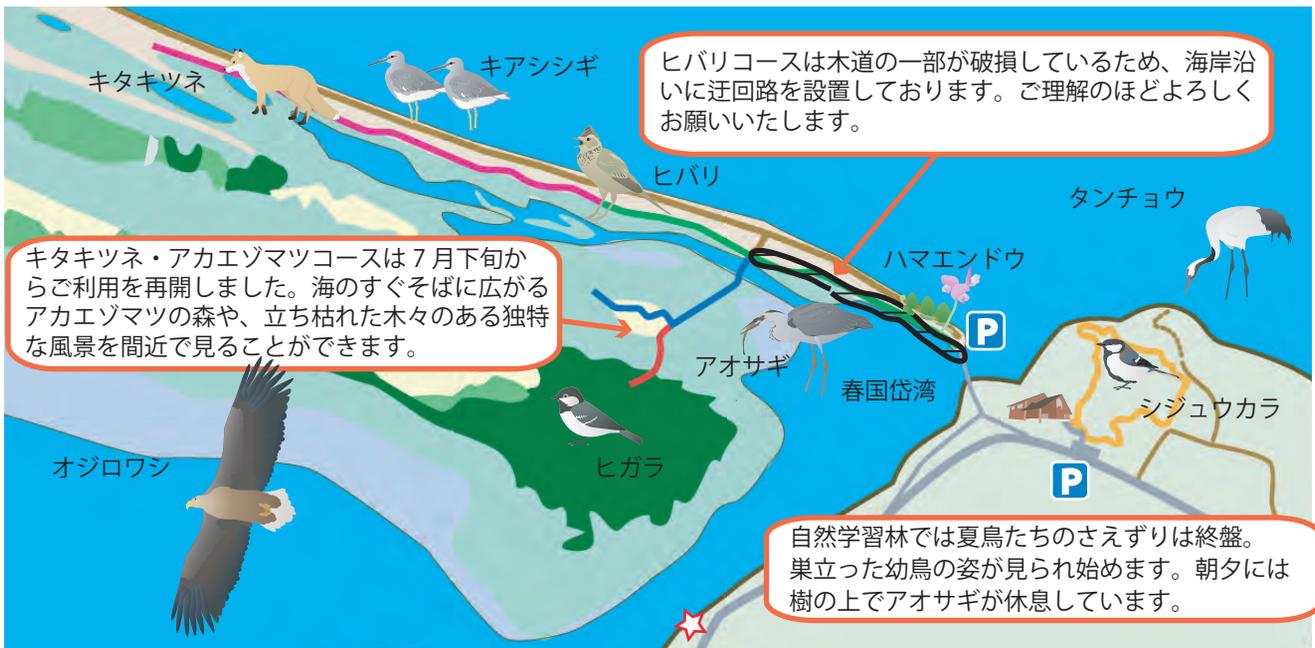


7月28日に道の駅スワン44ねむろから観察したオオハクチョウ4羽。

ネイチャーセンターだより6月号のNEWSで、5月下旬に、通常は旅鳥または冬鳥のオオハクチョウが3羽、春国岱で観察されたことをご紹介しました。その後6月に入ってしばらく姿を見なくなったのですが、6月下旬に春国岱湾内で連日1羽を見るようになり、7月に入ってまた姿を見なくなりました。しかし7月22日に風蓮湖の湖岸で3羽を、7月28日には道の駅スワン44ねむろから風蓮湖内に4羽いるのを確認しました。秋には南へ旅立つのか、気になるところです。

見どころMAP

※マダニ・ヌカカ・カを防ぐため、散策時は長袖・長ズボンに、虫よけスプレーや蚊取り線香の使用など、虫よけ対策をおすすめします。



キタキツネ・アカエゾマツコースは7月下旬からご利用を再開しました。海のすぐそばに広がるアカエゾマツの森や、立ち枯れた木々のある独特な風景を間近で見ることができます。

ヒバリコースは木道の一部が破損しているため、海岸沿いに迂回路を設置しております。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

自然学習林では夏鳥たちのさえずりは終盤。巣立った幼鳥の姿が見られ始めます。朝夕には樹の上でアオサギが休息しています。

- 観察路 (ヒバリコース1.2km、約25分)
- 観察路 (ハマナスコース1.4km、約30分)
- 観察路 (キタキツネコース0.8km、約20分)
- 観察路 (アカエゾマツコース0.5km、約15分)
- 観察路 (小鳥の小道1.4km、約30分)
- 作業路 (春国岱上は車両進入禁止)
- 根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター (入館無料)
- ★ 東梅野鳥観察舎 (東梅ハイド)

8月の見どころ予報

凡例

- ◎ ぜったい見られる (と思う)
- ちょっと気をつければ見られる
- + よーく気をつければ見られる
- ・ めったに見られない

オジロワシ	○	干潮前後に、干潟や消波ブロックに降りている姿が見られます。風蓮湖や春国岱上空を飛んでいることもあるので、上空もチェックしてみましょう。繁殖の季節が終わったため、巣立った幼鳥も見られるかもしれません。
タンチョウ	○	春国岱周辺の干潟や湿地で採食している様子や休んでいる様子が見られます。ヒナを連れた親鳥は警戒心が強い時期なので、動きをとめてこちらを見ていたり、首を伸ばして周囲を見ている場合は離れるようにしてください。
アオサギ	○	春国岱湾や根室湾の浅瀬で、魚をとらえる姿を見ることができます。多いときは100羽近くが集まります。体の大きな鳥なので、観察もしやすいです。朝夕は自然学習林で休んでいることがあります。
シギ・チドリ類	+	子育てを終えたキアシシギやキョウジョシギなどのシギ・チドリ類が渡ってきます。8月は秋の渡りの最盛期です。春国岱湾や根室湾の干潟で採食している姿や、砂地で休息している姿を観察できます。
春国岱	野鳥 (森)	さえずりは盛んではなくなりますが、運が良ければクマガウの声を聞ける可能性も。
	野鳥 (草原)	ヒバリはさえずりは聞かれなくなりますが、姿を見ることができます。ノビタキやオオジュリンなどの巣立った幼鳥と出会うこともあるでしょう。
	花	ハマナスは実がつきはじめます。春国岱駐車場周辺からヒバリコースにかけて、ナミキソウ、ウンラン、エゾオグルマが花盛りです。キタキツネコースのエゾハコベ、エゾツルキンバイはまだ咲き続けています。
自然学習林	野鳥	小鳥たちのさえずりはあまり聞かれなくなりますが、上旬まではウグイス、エゾセンニュウ、センダイムシクイのさえずりは時々聞こえることがあります。カラ類やエナガなどの巣立った幼鳥と出会うことも。
	花	クサフジ、ノリウツギ、クルマバナが花盛りです。中旬から下旬にかけてハンゴンソウ、エゾトリカブト、ツリフネソウ、ミミコウモリが開花するでしょう。

ハウロクシギ 6月の観察記録

表紙の「新・いきもの図鑑」でもご紹介したハウロクシギですが、今年は6月に7日間、春国岱周辺（春国岱湾、根室湾、温根沼大橋付近）で観察されています。ハウロクシギの繁殖期は5月下旬から7月上旬なので、この観察記録は珍しいと思います、過去の記録を調べてみました。すると、2020年は6月に観察された記録はありませんでしたが、2021年は6月に8日間、2019年は6月に3日間、2017年は6月に2日間、観察された日がありました。

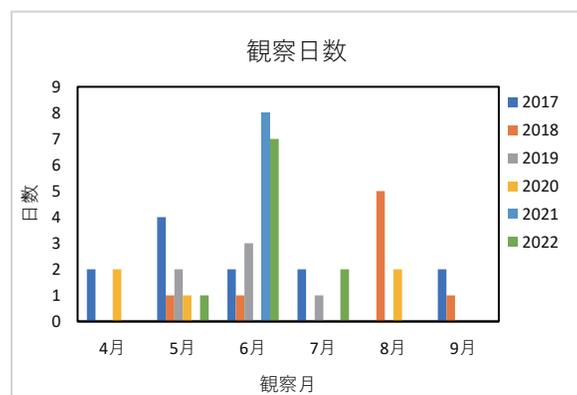


図1. 春国岱周辺における2017～2022年のハウロクシギの月毎の観察日数

2017～2022年の渡りの季節を含めた4～9月の期間（2022年は4～7月）において、春国岱周辺でハウロクシギの観察された日数を見てみると、図1のようになり、年により観察頻度に差があるものの、6月の観察記録が多いことがわかりました。最大羽数は、2021年は6月14日に5羽、今年は6月23日に3羽を確認しています。一方、ハウロクシギと同じ大型シギで、春国岱で観察されるチュウシャクシギやオオソリハシギは5月（春の渡り）と8～9月（秋の渡り）の観察記録が目立ちます。これと比べると、ハウロクシギだけが6月に記録が多いのは不思議です。

図鑑や報告書などでもハウロクシギは4～5月に渡るとしている資料が多いものの、3～6月に見られると記載がある資料もありました。また、『根室地方の野鳥』（1981年）において、黒沢信道さんはハウロクシギが、7月に根室地方で記録があることに言及し、「繁殖する可能性があるのではないか」と記載されています。

なぜ春国岱で6月にハウロクシギが観察されるのか、今回調べた資料だけでははっきりしたことはわかりませんでした。あくまでも推測にすぎませんが、一度繁殖地に行った個体が繁殖をあきらめて戻ってきているのかもしれない。また、そうやって戻ってきた個体が春国岱周辺に居残っている可能性も考えられます。

【参考文献】極東鳥類研究会・美唄、2017. 極東の鳥類 34.
高田勝・黒沢信道・三浦二郎、1981. 根室地方の野鳥
中村登流・中村雅彦、1995. 原色日本野鳥生態図鑑水鳥編、保育社。
A.I.Antonov・植田睦之、1999. アムール川中流域におけるハウロクシギの生態分布、繁殖行動、繁殖期。極東の鳥類 21. シギ・チドリ類特集, 84-86.

春国岱クイズ

7月31日に開催した海辺の生きもの観察会で、参加者の方が、うろこがかたくてごつごつしている、10cm くらいの変った形の魚の死体を見つけました。講師の小向純一さんにおたずねしたところ、「サブロウ」という名前で、白身でおいしい魚、ハツカク（正式名トクビレ）の仲間とのことでした。

名前の由来について調べたところ、ある人物にちなんでつけられた、ということがわかりました。では、この「サブロウ」の由来となった人とは、どのような職業の人だったのでしょうか？

- ① 野球選手
- ② 漫才師
- ③ 武将



7月31日の海辺の生きもの観察会で参加者が見つけたサブロウ。上：横から見たところ／下：背中側から見たところ

♪春国岱ネイチャーセンターのイベント情報♪

◆9/27 春国岱ボランティアゆるふわ体験 参加申し込み受付中!

- ◇日時：2022年9月27日(火) 10:00 ~ 12:00 ※雨天の場合は10月4日(火)に順延
- ◇内容：すがすがしい秋の林で春国岱ネイチャーセンターのボランティアグループ「スंक」のメンバーと自然学習林内の観察路の管理作業を体験します。今回は近年姿を見せなくなったコマドリの生息環境を整える作業を行います。
- ◇定員：10名
- ◇対象：春国岱ネイチャーセンターでのボランティア活動に興味のある18歳以上の方
- ◇集合：春国岱ネイチャーセンター
- ◇持ち物・服装：野外で活動できる服装・長靴・帽子・軍手・飲み物・タオル・マスク(保険はこちらで加入します)
- ◇申込み：メール、電話またはご来館時に直接。参加者全員の氏名・連絡先をお知らせください。
メ切：9月26日(月)16時
メール nemu_nc@marimo.or.jp 電話 0153-25-3047

◆毎週土曜日 ワンコインガイド

- 「ねむろトコロジスト(市民自然ガイド)の会」が春国岱の自然をご案内します。お気軽にご利用ください。
- ◇日時：毎週土曜日 午前10時~正午
※天候や人員確保などにより対応できない日時もございます。あらかじめご了承ください。
 - ◇受付場所：春国岱ネイチャーセンター(申込不要、当日直接お越しください)
 - ◇参加費：ひとり500円(小学生以下無料、ただし要保護者同伴)

募集中!

ボランティア『スंक』

春国岱ネイチャーセンターでは、施設ボランティアグループ『スंक』で活動して下さる方を随時募集しています。

『スंक』は、ネイチャーセンター周辺の自然を自らが楽しみ、環境保全について学び行動することを目的として活動しています。月に1回(基本的に第3火曜日)の定例会で、自然学習林の巡回や道標・樹名板などの管理を行ったり、市民向けのイベントを企画したりしています。熱いながらもゆるい楽しい集まりです。

ボランティアに興味のある方、定例会の見学ご希望の方は、ネイチャーセンターまでお問合せください。

- ◆対象：18歳以上
- ◆年会費(ボランティア保険料含む)：1,000円

フィールドマナーを守って

自然や生きものが安心して暮らせるように…

- 春国岱の駐車場から奥は、一般車両の乗り入れは法律で禁止されています
- 観察路からはずれないようにしてください
- 動植物の採取や捕獲はしないでください
- ゴミはお持ち帰りください
- 所定の場所での喫煙にご協力ください
- キタキツネやエゾシカ、野鳥など野生動物の生息地です。またマダニも多く生息しています。ペットを持ち込んだり、放したりすることはご遠慮ください

クイズのこたえ 答 ③。鎌倉時代の武将、熊谷次郎直実にちなんでつけられたそうです。うろこがよろいかぶのように大きな「クマガイウオ」という魚がいて、それに似ていて少し小さいので、「次郎の弟」で三郎、ということのようです。

出典：ぼうずコンニャクの市場魚貝類図鑑「サブロウ」<https://zukan.com/fish/internal2387>

根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター(入館無料)

〒086-0074 北海道根室市東梅103番地

TEL: 0153-25-3047 FAX: 0153-25-8570

Eメール: nemu_nc@marimo.or.jp

HP http://www.marimo.or.jp/~nemu_nc/workn/index.html

Facebook <https://www.facebook.com/shunkunitai/>

◆休館日：(開館時間9:00~17:00)

8月3・10・12・17・24・31日 9月7・14・20・21・26・28日

◆団体でご利用の方へ(事前予約制)

自然観察の案内や室内でのレクチャーなどのプログラムをご利用いただけます。



ラムサール条約湿地

風蓮湖・春国岱

2005年11月登録